

ビルマ語と日本語における申し出表現

——申し出の仕方を中心に——

キイ・ティダー*

キーワード: 申し出表現, 申し出の仕方, 申し出の当然性, 申し出の前置き, 申し出の終わり方

要 旨

本稿はビルマ語と日本語における申し出表現を比較対照するため行った3つの調査分析をまとめたものである。調査Ⅰは文学作品の用例抽出、調査ⅡとⅢはアンケート調査である。調査Ⅰでは、ビルマ語と日本語の文学作品から申し出表現を抽出し、両言語において話し手が相手に申し出の表現意図をどのように伝えるかを分析した。その結果、ビルマ語では相手に呼びかけはするが、申し出の前置きを言わずに、断定した表現を用いて、助ける厚意をそのまま申し出るのに対し、日本語ではできるだけ申し出の本题を言わずに相手に事実の指摘をしたり、相手の状況を確認したりして間接的な表現を用いて、申し出の意図を伝える。調査Ⅱ(ミャンマー在住ミャンマー人と日本人を対象としたアンケート調査)では、両言語における申し出の仕方の相違点に対する各参加者の意見が明らかになった。ミャンマー人は積極的に助けてあげたいという厚意に基づいて、申し出の当然性が高いと捉え、断定した表現を用いて、直接的に申し出る。一方、日本人は申し出の当然性が高い場合であっても、相手の気持ちや状況への配慮を優先させ、申し出るか否かを判断する。申し出ることになった場合でも、申し出の本题を最後まで言わずに途中でポーズを入れたり、または、相手に決定権を与えて断定しない表現を用いる。ミャンマー人日本語学習者が日本語で申し出の際の問題点を探るため、調査Ⅲ(在日ミャンマー人学習者とミャンマー在住学習者を対象としたアンケート調査)を行った。そこで、ミャンマー人学習者の申し出の仕方に関する問題(申し出の当然性の捉え方、断定しない表現の使用、助ける行為をそのまま申し出る、日本人の相手への配慮の理解、「～てあげる」の使い方、申し出る行為に伴う責任感の意識)と文法に関する問題(授受動詞の使い分け、尊敬語・謙譲語の使い分け、申し出の終わり方)が明らかになり、それらを指導の際の留意点としてまとめた。

1. 調査の目的と意義

本論はミャンマー人¹が日本語を習得する際、問題の多い申し出表現に関して、申し出のコミュ

* KYI Thida: 拓殖大学大学院言語教育研究科博士後期課程。

¹ 現在正式な国名はミャンマー (myanmar) で、国民はミャンマー人 (myanmar lumyou) と呼ばれている。公用語はビルマ族の言葉であり、ビルマ語 (barnaza) と呼ばれている。

ニケーションストラテジーを明らかにし、ミャンマー人学習者に日本語教育をする際の留意点を整理することを目的とする。最終的な目標は、ミャンマー人日本語学習者を対象とした日本語教師用解説書の作成に資することである。

2. 先行研究

「申し出表現」に関する文献はこれまでのところ一つしか見当たらなかった。坂本・蒲谷(1995)では、「申し出表現」自体を解明し、「待遇表現研究」及び「待遇表現教育研究」の基礎を築くことを目的としている。そこでは、実例による分析や、「申し出表現」に関する実証的な調査・分析に関しては触れていない。

3. 調査方法

ビルマ語と日本語の対照言語学的研究には、文学作品から抽出した用例を分析する。日本語教育への応用研究に関しては、ミャンマー人学習者にアンケート調査を行った。調査 I では、日本のテレビドラマやシナリオの作品やビルマ語の小説から抽出した用例分析を行い、申し出の仕方をコミュニケーションストラテジーの面から明らかにした。調査 II では、文学作品に見られる場面を用いて、日本人とビルマ人を対象とした自由記述形式のアンケート調査を行い、調査 III では、ミャンマー人学習者を対象としたアンケート調査を行った；調査 II と III は同一のアンケート用紙を用いた。具体的な項目は末尾の〈資料リスト〉に掲げた。

4. 調査の対象

調査 I では、ビルマ語の小説 10 冊と日本のテレビドラマ代表作選集、年鑑代表シナリオ集と雑誌などの 9 冊を選んで、申し出表現を抽出した。作品名は末尾の〈資料リスト〉に掲げた。調査 II と調査 III では、日常会話で用いられている「申し出表現」について以下の 4 つのグループを対象とした。ミャンマー在住ミャンマー人 20 人(以下「ミャンマー人」と省略)、日本人 20 人(以下「日本人」と省略)、在日ミャンマー人日本語学習者 17 人(以下「在日学習者」と省略)とミャンマー在住日本語学習者 17 人(以下「在ミ学習者」と省略)である。回答者は 20 代、30 代を中心にし、各グループの回答者を男女ほぼ半数にとった。「在日学習者」の日本語学習期間は 1～6 年、「在ミ学習者」は 2～12 年という幅広い差がある。日本人回答者の場合は東京出身者を、ミャンマー人回答者の場合はヤンゴン出身者を選んだ。調査対象者の属性は末尾の〈調査対象者リスト〉に掲げた。

5. 申し出表現の規定

「申し出表現」は話し手の判断に基づいて、相手のためになるだろうと思われる行為を行いたいことを、相手に伝える発話行為である。以下に例を挙げる。

例(1) 相手利益の申し出表現

『99 年鑑代表シナリオ集』「あつもの」p. 327 より

場所: 黒瀬の公園

人間関係: 近所の人

場面・状況: 黒瀬は菊栽培に成功しているので、近所で菊の研究をしている奎来は黒瀬の肥料の作り方を教えてもらいたいと思っているようで、それを見て黒瀬が申し出た。

黒瀬 「...私の菊に追いつく万法をお教えしましょうか」

奎来 「...」

黒瀬 「私の、秘密の作り方を」

奎来 「...」

黒瀬 「貴方には、ただでお教えしますよ」

本論では、談話レベルで表現の機能²を文脈から判断して申し出表現を抽出した。

6. 分析結果

6-1. 調査 I

6-1-1. 申し出の仕方

文学作品を調査対象としたため、表現意図を話し手に直接聞くことはできないが、文脈から表現の機能を判断した。話し手が行動を始める段階の前に、相手を自分の発話に引き込むために喚起したり、相手の気持ちや状況を尋ねたり、確認したりする場合もある。本論では、申し出の表現展開を考察する場合、「申し出の前置き」と「申し出の本題」に大別した。

ビルマ語では、申し出の本題のみを言う場合が多い。申し出の前置きとして、「呼びかけ」、「事実の指摘」、「相手状況の確認」、「相手の気持ち尋ね」などが現れる。本調査では、前置きが現れた表現は用例全体の 16% に過ぎない。しかし、日本語の作品には、前置きを言って相手の反応を待ち、それによって、申し出を行ったり、行動を始めたりする。特に「失礼ですが、...」、「すみません」や「もし、よろしければ」などがよく用いられている。前置きが見られる日本語の表

² ここで言う「機能」は「言語学大辞典」6 巻 (p. 273) の「機能」の項で「人間が相互に表現を伝達するという機能」を指す。本論では、特に「話し手と聞き手を結びつける交話的 (phatic) 機能」を取り上げた。

現は 62% である。以下にビルマ語と日本語の例を一つずつ挙げる。

例 (2) 「Achi'-i. Nau'hse'twe Sam:e'hna」 p. 502 より

場所: 病院

人間関係: 上司と部下

場面・状況: 職場で転勤することで大変忙しくしている上司を部下が手伝う。

Thet Zaw Naing 「e: dadwe kꞑano lou'-pei:-hma-ba Ma Ma Nwe」

テッゾーナイン(人名) これら 私 する-あげる-助動詞-丁寧 対称詞

(ママヌエさん、私がやってあげる)

例 (3) 「'98 年鑑代表シナリオ集」 「フレンチドレッシング」 p. 162 より

場所: マリイの部屋で

人間関係: 恋人

場面・状況: マリイの部屋で、マリイが朝起きて彼氏の岸田に。

マリイ 「お腹すかない？」

岸 田 「すいた」

マリイ 「何か作ろうか？」

岸 田 「本当に？」

例 (2) は、上司が忙しい状況にいるのを分かっていることから、申し出の前置きを言わずに、「これらを私がやってあげます」と申し出の本题をそのままストレートに言っている。一方、例 (3) では、相手がお腹すいているか否かを確認して、相手が「すいた」と答えたにも拘わらず、「何か作ろうか？」と断定しない表現を用いている。

ビルマ語の作品では、文末に関して断定した表現がほとんどであり、相手に決定権を与えた表現はあまり見られなかった。一方、日本語の作品には、断定しない表現が多く、また「相手の状況確認」や「相手の気持ち尋ね」が非常に多い。さらに、恩着せがましさを避ける傾向が見られた。ビルマ語の作品には、申し出の表現に対称詞や自称詞がよく用いられているが、日本語の作品には非常に少ない。今回調査対象としたビルマ語の小説から抽出した用例 128 の申し出表現(出典は末尾の〈資料リスト〉を参照)のうち、対称詞が用いられている表現は用例全体の 53% で、自称詞は 74% である。日本の作品から抽出した用例 125 (出典は末尾の〈資料リスト〉を参照)のうち、対称詞が用いられている表現は 7% で、自称詞は 15% に過ぎない。ビルマ語では対称詞を用いることで話し手と相手との人間関係が明らかになり、さらに自称詞を使ったり文末の言葉を付加したりして、相手に対する敬意を表す。一方、ビルマ語と違って日本語では、対称詞・自称詞を用いて敬意を表すより、動詞や助動詞を中心とした尊敬語・謙譲語あるいは丁寧語や文体などの敬語表現を用いて敬意を表す。丁寧体と普通体の使い分けがはっきりしていて、目上の人に対しては必ず、丁寧語が用いられている。それに、初対面の人や親しくない同レベルの相手に対

しても、丁寧語を用いることが多い。また、言い切らずに途中でポーズを入れたりして、相手の反応にしたがって話を進めていく。

例(4) 『Lwan:-ja.aun』 p. 7 より

場所: 駅のホーム

人間関係: 友人

行われた状況、場面と対話: 知り合いを見送る場面である。

Kou Mjou: Win: 'nga thwa:-wei-lai'-me

コミュニウイン(人名) 私 行く-助動詞-終助詞-ムード

(私すぐ行って買います)

コミュニウインは食べものを買ってこなかったで、友人が買ってくると申し出た。

例(5) 『Achi'-i. Nau'hse'twe Samje'hna』 p. 510 より

場所: 上司の家

人間関係: 上司と部下

場面・状況: 職場で転勤することで大変忙しくしている上司を部下が手伝う。

'kjande. thi'ta-dwe-le: mane' hpan kjano la-hte.-pei:-me Ma Ma Nwe

残り 箱-たち-も 明日 私 来る-入れる-あげる-ムード (相手の)人名

(明日私が来て残りの箱を詰めてあげます)

例(6) 『'91年鑑代表シナリオ集』「息子」 p. 228 より

場所: 会社

人間関係: 社長が部下に

場面・状況: 荷物が多くて大変そうな部下に上司が申し出る。

社長 「大変ですね。手伝いましょうか」

哲夫 「いやいいです。社長さんは休んでください」

例(4)と例(5)に示したように、ビルマ語の作品では、「相手状況の確認」や「相手の気持ち尋ね」など「申し出の前置き」はほとんど見られず、いきなり「申し出の本題」を言って、申し出の意図をストレートに伝える。相手の状況への配慮があればあるほど当然性³の度合いが高くなり、申し出の仕方が直接的な表現になる。例(5)のように上下関係がはっきりしている場合、文末に丁寧さを表す言葉を付け加えるが、申し出の仕方は友人や同僚の場合と同様である。一方、日本語ではビルマ語と違って 上下関係や親疎を重視し、当然性の度合いを考え、それにふさわしい申し出の仕方をする。相手に対する厚意がミャンマー人と同じぐらいの場合であっても、相手への配慮の仕方が異なっており、申し出の仕方も当然違ってくる。例(6)では、まず「相

³「当然性」は、話し手と相手との人間関係、場面や状況、申し出の内容に基づき、社会的常識から見てその申し出が当然であると判断される度合いである(坂本・蒲谷(1995)の p. 27 を参照)。

手状況の確認」や「相手の気持ち尋ね」など「申し出の前置き」を言って、相手の反応に応じて表現する。

6-2. 調査 II

調査 I では、ビルマ語と日本語の文学作品に見られる申し出表現を、文脈から表現が果たしている機能を判断して用例を抽出した。それは、ある意味では話し手の表現意図を文脈から想定したことでもある。それに対し、調査 II では話し手の申し出の表現意図が明確になっている場合、その意図を相手にどのように伝えるかを調べ、申し出の仕方を分析した。

6-2-1. 調査項目

調査項目としては、日常生活によくあるだろうと思われる状況として5つを設定したが、うち2つの項目は申し出表現の周辺的なもの(項目の内容は末尾の〈アンケート用紙〉を参照)だった。よって5つのうち、調査目的に適切である項目3つを取り上げ、各項目に上下・親疎関係に基づいて、以下の場面を設定した。項目 I (以下「ボタンはずれ」と省略)では、背中のボタンがはずれている女性に申し出る。項目 II (以下「転んだ女性」と省略)では、つまずいて転んだ女性に申し出る。項目 III (以下「ネコの面倒」と省略)では、旅行に行く間、ネコの世話ができなくて、困っていると言って来た知り合いに申し出る。

6-2-2. 調査対象者と調査方法

調査 II の調査対象者は「ミャンマー人」と「日本人」である。場面を設定した自由記述形式のアンケート用紙を用いて調査を行い、さらに回答者全員にインタビュー調査を行った。まず、各グループに a) 直接会ってアンケートに回答してもらう、b) メールで回答してもらう、又は c) 郵送で回答してもらうという3つの方法で回答してもらった。そして、アンケート調査の結果をまとめ、各グループに見られる、ビルマ語と日本語との申し出の仕方(厚意的な意思の伝え方)を中心に分析した。そして、これらの相違点を中心に、インタビュー⁴で各参加者の表現意図や表現形式について尋ねた。

6-2-3. 申し出の仕方の比較分析

本調査は自由記述形式でアンケートに回答してもらったが、日本人回答者、ミャンマー人回答者いずれにも似たような表現構造が見られた。個人差があり、用いる言葉もまちまちであるが、表現意図に基づいて分析すると表現構造が整理され、申し出表現を「申し出の前置き」、「申し出の

⁴ 筆者は、「ミャンマー人」のアンケート用紙の回答収集やインタビュー調査を調査協力者であるヌヌチョ(友人)に依頼した。ヌヌチョはヤンゴン外国語学院の日本語学出身者で、商社の日本語通訳をしている。

本題」に大別できる。前にも述べたように、「申し出の前置き」には、「呼びかけ」、「事実の指摘」、「相手状況の確認」、「相手の気持ち尋ね」などが見られ、そのうち「呼びかけ」は全項目に現れたが、残りの3つは項目によって異なっている。項目 I では「事実の指摘」（背中のボタンがはずれているのに気づかせること）、項目 II では「相手状況の確認」（怪我したか / 立てるか尋ねること）と、項目 III では「相手の気持ち尋ね」（相手の困っていることを繰り返して言ったりすること）が見られた。この3つを表1で一列で示し、「前置き」A, B, C」と区別する。「申し出の本題」には話し手が行おうとしている行為が見られる。項目 I で「ボタンをはめる」こと、項目 II で「転んだ女性を起こす」こと、項目 III で「ネコを預かる」ことである。表に示した数字は項目ごとのそれぞれの回答者のグループごとの全回答に対するパーセンテージである。

6-2-4. 項目別分析

表1に示されたように、項目や場面、または、話し手と相手との親疎や上下関係によって申し出の仕方が異なっている。ミャンマー人と日本人回答者の申し出の仕方の類似点や相違点について項目別に分析する。

表1 ミャンマー人と日本人回答者の申し出の仕方

項目	相手	呼びかけ		前置き A, B, C		申し出の本題	
		[ミャンマー人] 20人	[日本人] 20人	[ミャンマー人] 20人	[日本人] 20人	[ミャンマー人] 20人	[日本人] 20人
I. ボタンはずれ	1(a) 親友	65%	12%	85%	82%	85%	55%
	1(b) 親しくない友達	70%	12%	90%	85%	85%	52%
	2(a) 親しい上司	70%	9%	85%	85%	75%	52%
	2(b) 親しくない上司	80%	15%	90%	88%	70%	39%
II. 転んだ女性	1(a) 親友	70%	3%	80%	97%	80%	33%
	1(b) 親しくない友達	60%	3%	65%	97%	80%	21%
	2(a) 親しい上司	65%	3%	60%	94%	85%	21%
	2(b) 親しくない上司	45%	3%	35%	94%	85%	27%
III. ネコの面倒	1(a) 親友	5%	0%	0%	9%	100%	100%
	1(b) 親しい上司	35%	0%	0%	9%	100%	94%
	1(c) 親しい部下	35%	0%	0%	12%	100%	97%
平均	1(a) 親友	47%	5%	55%	63%	88%	63%
	1(b) 親しくない友達	55%	5%	52%	64%	88%	56%
	2(a) 親しい上司	68%	6%	73%	90%	80%	37%
	2(b) 親しくない上司	63%	9%	68%	91%	78%	33%

⁵ 「申し出の前置き」の(A)は、「背中のボタンがはずれているのに気づかせる」、(B)は「怪我したか / 立てるか尋ねる」、(C)は「相手の困っていることを繰り返して言ったりすること」である。

6-2-4-1. 項目 I 「ボタンはずれ」

ミャンマー人回答者は、親疎や上下関係と関わりなく、全ての相手に同様な言い方をしている。まず、呼びかけて、「背中のボタンがはずれている」と事実を述べる。同時に、「はめようか」と申し出る。日本人回答者の中で、呼びかけをする人はわずか 10% 前後しかいない。しかし、「背中のボタンがはずれている」ことを言う人は 90% 近くである。また、「はめようか」と申し出る人は 50% 前後になっている。

6-2-4-2. 項目 II 「転んだ女性」

ミャンマー人回答者は、項目 I 「ボタンはずれ」と同じく、呼びかけをして「大丈夫か / 怪我したか / 立てるか」と尋ね、「起こそうか」と申し出る。一方、日本人回答者で呼びかけをする人は 3% しかいないが、「大丈夫か / 怪我したか / 立てるか」と尋ねる人は 90% を超えている。しかし、「起こそうか」と申し出ることはあまり見られなかった。

6-2-4-3. 項目 III 「ネコの面倒」

項目 I, II と違って、ミャンマー人と日本人回答者いずれも、呼びかけをあまりせずに、直接申し出る人が圧倒的に多かった。これは、アンケート用紙に示したように、文脈による理解があって、申し出の当然性が高いからであろう。しかし、ミャンマー人は日本人と違って、「困るでしょう / ネコの面倒どうする」など相手の話を繰り返すことをせずに、直接申し出る。

こうしたミャンマー人と日本人の申し出の仕方の違いについて、インタビュー調査で尋ねたところ、次のことが分かった。項目 I 「ボタンはずれ」と項目 II 「つまずいて転んだ女性」では、ミャンマー人は積極的に申し出るのに対し、日本人は相手に何かしてあげたいと思う場合でも、自分の行為が相手に、恥ずかしさを感じさせるかもしれないと判断する時は、事実を述べる程度にとどめて、明瞭に申し出ることはしない。

項目 III 「ネコの面倒」では、ミャンマー人回答者は文脈で状況を理解して、「自分はネコが嫌いではないことを相手が知っていて、わざわざ頼んできたことに対して、できるだけ何かしてあげたい」と思う。それに対し、日本人回答者はネコを預かることに責任が伴うので、万一問題が起きたら、相手に迷惑になることを心配する傾向がある。また、日本ではペットホテルもあるということも相手に積極的に申し出ないことの一つの要因だと思われる。以上のようにビルマと日本では、言語や文化の違いで、自分と相手との親疎や上下関係による申し出の仕方の異なっていることが明らかになった。

6-3. 調査 III

調査 II の比較対照分析から明らかとなった「ミャンマー人」と「日本人」との申し出の仕方の相違点はミャンマー人日本語学習者に対する日本語教育の留意点として捉えられる。さらに、ミャンマー人日本語学習者が日本語で申し出の際の問題点を明らかにするため、調査 II の同一

のアンケート用紙を用いて、「在日学習者」17人と「在ミ学習者」17人に回答してもらった。日本語で申し出時の問題点を整理し、各グループの学習者に対する留意点を述べる。前回行った調査 II の日本人回答者の回答をモデルとし、回答を分析した結果、調査 III の「在日学習者」と「在ミ学習者」の両グループに見られる表現上の問題点はほぼ共通している。ただ、問題点の出現頻度は、「在ミ学習者」の方が「在日学習者」の2倍を超えている場合が多い。主要な問題点は、「申し出の適切さ」と「文法に関する誤用」に関するものであり、これらについて以下に考察する。

6-3-1. 申し出の仕方の適切さ

ここで言う「適切な申し出表現」というのは、場面や相手との人間関係に配慮し、その結果、何をどう言えば、自分の厚意が伝わるかという申し出の仕方に関する適切さである。「在日学習者」には、日本で生活しているとはいえ、日本文化や習慣にあまり慣れていない学習者もあり、彼らは自分(ビルマ)の生活習慣通りに申し出る傾向がある。「在ミ学習者」は当然のことながら、日本文化や習慣に関する知識がほとんどないため、相手への配慮の仕方が日本人と異なっており、日本語としては不適切な申し出表現になっている回答が多かった。適切な申し出表現が使える各グループの回答者のパーセンテージを項目ごとに分けて次の表 2 に示す。

表 2 項目ごとに見られる申し出の適切さ

申し出の適切さ	I ボタンはずれ		II 転んだ女性		III ネコの面倒		平均	
	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人
正しく使える	44%	19%	63%	24%	51%	13%	53%	19%
やや正しい	40%	62%	13%	38%	36%	50%	29%	50%
正しくない	16%	19%	24%	38%	13%	37%	18%	31%

表 2 から分かるように、適切な申し出表現が使える回答者は、「在ミ学習者」は項目 III が 13% しかおらず、項目 I と II も 20% 前後で、「在日学習者」の半分近くにしかない。この差は日本留学中という環境の差であろう。各項目とも色々な親疎・上下関係に基づいて申し出る場面を設定したが、全体を通して敬意を表す必要のある相手に申し出る場合の方が問題が多かった。これらは以下のように整理できる。

① 当然性の捉え方

各項目に設定した場面と人間関係、及び申し出の内容に基づいて申し出の当然性が判断されるが、日本語として当然性がそれほど高くない場面でも、ミャンマー人学習者は当然性が高いと捉える。それでは、申し出の仕方も不適切になってしまう。親しい友人(申し出の当然性が高い場

合)に対しては、ほぼ適切な申し出表現⁶を用いた回答者が大半を占めている。しかし、相手が目上の人や転勤してきたばかりの人の場面では日本語として不適切な申し出表現が多かった。以下に例を挙げる。

「...さん、背中ボタンが外れていますから、はめてあげましょう」(I.2.b)

「立ち上がれますか、助けてあげようか」(II.2.b)

「私が見てあげます。安心してください」(III.2.b)

② 断定しない表現の使い方

項目 I でボタンをはめること、項目 II で転んだ女性を起こすことと、項目 III でネコを預かることは実際に利益を受ける人は相手である。しかし、こうした行為は相手が要求していないかもしれないので、場合によっては相手の迷惑になりかねず、断定した発話は日本語としては不適切な表現になる。

③ 意図の伝え方

項目 I でボタンをはめること、項目 II で転んだ女性を起こすことは相手にとって、恥ずかしいことでもあるので、それを直接に申し出することは適切ではないと考えられる。しかし、「在ミ学習者」と「在日学習者」の両グループは、前置きもなくいきなり申し出た、「休憩した方がいい」、「薬をぬってください」、「お医者さんに診てもらった方がいい」や「家まで連れて行ってあげます」などしつこくアドバイスをしている回答者もいる。

④ 相手への配慮

項目 II で転んだ女性を起こしてあげることは、その女性にとって、恩恵を受けることになり相手に負担を感じさせてしまうケースが多いようである。項目 III でネコを預かることもこれと同様である。相手は、もしかすると、人には恩恵を受けたくないと思っているかもしれない。こうした相手への配慮をせずに、自分の厚意を優先して申し出ると、不適切な申し出表現になってしまう。

⑤ 「～てあげる / さしあげる」の使い方

実際に利益を受ける人は相手であるが、できるだけそれを表現に出さずに、あたかも相手には利益がゼロであるかのように感じさせる「～てあげる」を用いない表現が適切である。しかし、ミャンマー人学習者は「～てあげる / さしあげる」の恩着せがましさに気づいていないようである。

⑥ 責任感の意識

項目 III 「ネコの面倒」では、文脈による申し出の当然性が高い場面になっているので、「在ミ学習者」と「在日学習者」いずれも相手が困っていることを思いやり、相手を安心させたいとい

⁶ ここで言う「適切な申し出表現」というのは、本稿でモデルとした日本人回答者の回答に似たような申し出表現である。

う気持ちが強い。そこで、前置きの言葉や、相手の話を一応繰り返して言うことをせずに、いきなり「心配しないで、ネコのことは私に任せてください」や「安心して行ってらっしゃい」や「餌をたっぷりあげるから」などと言う。要するに、申し出る行為に伴う責任を意識せずに行動を始めようとする。上述の申し出の仕方に関する問題点をもう一度整理し、両グループに見られる問題点の出現頻度を以下の表3に示す。

表3 申し出表現の仕方に見られる問題点の出現頻度

	問題点	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人
①	当然性の捉え方	45%	87%
②	断定しない表現の使い方	50%	90%
③	意図の伝え方	95%	98%
④	相手への配慮	25%	85%
⑤	「～てあげる」の使い方	55%	82%
⑥	責任感の意識	92%	98%

「在日学習者」は日本に留学しているので、日本語として適切な申し出表現ができと思われがちだが、表3に示したように、問題点④は25%、②と⑤はほぼ半分が適切な申し出の仕方が身についていないのである。なお、問題点③と⑥では、「在ミ学習者」とほとんど差がなく、適切な申し出表現を用いた解答者は1割にも満たない。したがって、両グループに見られる各問題点の出現頻度を考慮し、それぞれの学習者が必要としている事項に重点をおいて指導する必要がある。

上述の問題点を生じさせた理由を探るためインタビュー調査を行い、回答者の考えを尋ねたところ、ミャンマー人の思想や母語がかなり影響していることが明らかとなった。上記の問題点につきそれぞれの理由とこれらに対する指導上の留意点は下記の通りである。

① 「在日学習者」と「在ミ学習者」の両グループとも、心理的な距離のある相手であっても自分が申し出ることは厚意的な行為であると考え、申し出の当然性が高いと判断する。そのため、まず、ミャンマー人学習者に日本語としての申し出の当然性の捉え方を具体的な場面を提示して理解させる。こうした当然性の度合いに基づいて申し出るか否かを決定すると指導する。

② ビルマ語では断定しない表現にすると、口先だけのことになりかねず、相手に対して親切ではないと感じさせる。そこで学習者に、日本語はビルマ語と違って断定せずに、あたかも決定権が相手にあるかのような表現「～(し)ようか」「～(し)ましょうか」を用いた方がより適切であることを理解させる。

③ ミャンマー人としては、直ちに申し出ないことは積極的にしてあげたいという相手に対する厚意がないことになる。しかし、日本語では、人間関係や場面に応じて自分の申し出の意図をそのまま表現に出さずに、間接的な申し出表現をすることで敬意が高まると説明する。

④ 日本人と接する機会が少なければ少ないほど、日本人の思想や相手への配慮の仕方に関する知識が少なく、自分の文化や思想に基づいた配慮で自分の厚意を優先して申し出てしまう。それに関して、日本人は自分の厚意よりも、相手への配慮を優先して表現する場合がほとんどであることを納得させる。

⑤ 「～てあげる / さしあげる」はビルマ語の「～pei:」に該当するが、「～pei:」は厚意表現であり、目上の人や心理的な距離のある相手に対して使うことに全く問題はない。一方、日本語では、「～てあげる / さしあげる」表現を用いると思着せがましくなることを理解させる。

⑥ 両グループの回答者は、申し出る行為に伴う責任感より、まず相手を安心させたいという厚意から無頓着に申し出る場合が多く、万一問題が起きたとしても、相手に理解してもらえたと考えている。だが、申し出る行為に伴う責任も意識した上で申し出なければならないことに気づかせる。

6-3-2. 文法に関する誤用

6-3-2-1. 授受動詞の使い分け

日本語の「～てくれる」に該当するビルマ語の表現がないためか、「在ミ学習者」は「～てあげる」・「～てくれる」表現の行為主体と恩恵の受け手が混乱しているようである。「～てあげる」、「～てくれる」はいずれもビルマ語の「～pei:」に相当し、日本語と違って、行為主体と受け手の人称制約がない。ビルマ語では、文脈で行為主体が明瞭になっている。「～てあげる」を使うべきところに「～てくれる」を使ったせいで、行為主体が逆になり、申し出表現ではなくなってしまう。こうした誤用は「在日学習者」には見られなかった。その割合を以下の表4に項目別に示す。

表4 授受動詞の使い分け

授受動詞の使い分けの適切さ	I ボタンはずれ		II 転んだ女性		III) ネコの面倒		平均	
	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人
適切な使い分け	100%	23%	100%	31%	100%	49%	100%	34%
適切でない使い分け	0%	77%	0%	69%	0%	51%	0%	66%

6-3-2-2. 文末の終わり方

文末で、断定しない表現と断定した表現とが用いられているが、断定しない表現として、「～てあげようか」にすべきところに、「～てあげますか」を用いた。それでは、行為主体は自分ではなく相手になり、恩恵の受け手は第三者になってしまう。申し出表現の終わり方(「～ましょうか」)が上手に使えないという問題は両グループに見られたが、特に、「在ミ学習者」に上述した誤りが圧倒的に多かった。さらに、これらの文末が使えず「～てもよろしいですか」を用いた学習者も

多かった。「在ミ学習者」だけでなく、「在日学習者」にも問題があり、さらに、項目によって問題点の出現頻度が異なっている。申し出表現の終わり方の適切さを表5で示すことにした。

表5 申し出表現の終わり方の適切さ

申し出の終わり方の適切さ	I ボタンはずれ		II 転んだ女性		III ネコの面倒		平均	
	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人
適切な終わり方	49%	21%	42%	16%	28%	1%	40%	13%
適切でない終わり方	51%	79%	58%	84%	72%	99%	60%	87%

表5から分かるように、項目IとIIでは、適切な申し出の終わり方になっているのは、「在日学習者」がほぼ半分であるのに対し、「在ミ学習者」は20%前後である。特に、項目IIIでは、適切だと思われる文末は「在日学習者」が28%で、「在ミ学習者」は1%に過ぎない。「～てもよろしいですか」がよく用いられていることに関して、インタビュー調査を行った結果、次のことが分かった。ミャンマー人は、相手に許可を求める時、または、自分の厚意を相手に伝え、相手の気持ちを尋ねたい時に、「～ja-ma-la:」（「～てもよろしいですか」）を用いる。しかし、相手に何かをしてあげたいと申し出る場合には、日本語の申し出表現「～ましょうか」に該当するビルマ語の表現はなく、状況や場面に応じて、「～me」（「～します」）の断定した表現や「～ja-ma-la:」を用いる。日本語の学習では、「～てもよろしいですか」の許可求め表現と「～ましょうか」の勧誘表現（自分と相手と一緒に行動する）は定着しやすいのに対し、「～ましょうか」を申し出表現として使うことはなかなか定着しない。不適切な申し出表現を用いる原因として以上2つのことが考えられる。

6-3-2-3. 敬語表現の使い分け

両グループに見られた尊敬語・謙譲語の使い分けに関する問題点を項目ごとに分析し、以下の表6に示す。

表6 尊敬語・謙譲語の使い分け

尊敬語・謙譲語の使い分けの適切さ	I ボタンはずれ		II 転んだ女性		III ネコの面倒		平均	
	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人	「在日学習者」17人	「在ミ学習者」17人
正しく使っている	1%	4%	18%	4%	7%	0%	9%	3%
正しく使っていない	99%	96%	82%	96%	93%	100%	91%	97%

日本語の敬語表現の使い分けが身につけていない学習者が多かった。特に、動詞を中心とした使い分けに関しては、尊敬語を使うべきところに、謙譲語を用いたりする。申し出の行為主体は自分であるから、その動作に関しては謙譲語を使うべきところに尊敬語を用いた学習者もいた。項

目 I では「はめる」に関して、「おはめする」にすればよいところに、「おはめになる」となっている。項目 II では、緊急の場合であり、かつ文が短いせいもあって相手が立てるかどうかの確認に、「大丈夫か」と聞く場合、丁寧体と普通体との使い分けがあまり定着していない。項目 III では、「預かる」動詞の謙譲語「お預かりしましょうか」を使っている学習者は「在ミ学習者」は 0% であり、「在日学習者」は 7% しかいなかった。

「文法に関する誤用」をまとめると、両グループともに「あげる」の謙譲語「さしあげる」がもつ恩着せがましさに気づいていない学習者が多かった。「在日学習者」は授受動詞の選択の問題はないが、「在ミ学習者」は半分以上を占めている。そして、文末の終わり方や尊敬語と謙譲語の使い分けに関する問題は「在ミ学習者」は「在日学習者」の 2 倍以上である。こうした誤用の出現頻度に基づいて、ミャンマー人学習者を指導する際、それぞれの問題点に重点をおいて指導すればよいと考える。

7. ま と め

「ミャンマー人」にビルマ語で回答してもらった調査 II では、回答者は相手がミャンマー人であると想定していたが、「在ミ学習者」に日本語で回答してもらった調査 III では、相手が日本人であると想定していた。それは使用する言語によって、その言語に含まれている文化的背景や社会的習慣により影響を受け、さらに、相手の文化・習慣に合わせた申し出表現になっているからである。

調査 I のビルマ語と日本語の文学作品から抽出した申し出表現の分析から、申し出の仕方に関する相違点が明らかとなった。調査 II の分析結果は調査 I とほぼ同様であり、インタビュー調査から回答者の申し出表現の仕方に対する意見及び問題点が生じた理由が明らかになった。さらに、調査 III を行うことによって、ミャンマー人学習者が日本語で申し出の際の問題点が一層明確になり、これらに対する指導上の留意点を明らかにすることができた。

ここで、調査分析結果をまとめておく。調査 I で明らかになった申し出の仕方の違いが生じた理由は、調査 II と III の分析結果によって説明できる。ビルマ語で申し出の場合と日本語で申し出の場合とでは、申し出の内容の捉え方、人間関係や場の捉え方が異なっており、それに基づいた当然性の捉え方の違いも出てきて、申し出の仕方も異なってくる。なお、積極的な気持ちの伝え方が全く違っていること、相手文化、思想の知識を充分習得していないこと、申し出る行為に伴う責任感の程度が異なることなどである。文法に関する問題は母語の影響を受けていることもあり、授受動詞の使い分けが身についていないことが明瞭になった。

本稿の調査分析結果を発展させるため、ロールプレイによる調査を実施した。今後はミャンマー人学習者を対象とした実験授業を行い、上述の留意点が果たして日本語の申し出表現の習得

に役に立つか、効果の程度を見極めて、最後に教師用指導書及び補助教材の作成を試みる予定である。

参 考 文 献

- 足立正治他(1996)『日本語教師養成シリーズ言語学』, 東京法令出版。
 蒲谷 宏他(1998)『敬語表現』, 大修館書店。
 川村よしこ(1998)『目上に対して「親しさ」を表す会話のストラテジー』『講座日本語教育』第33分冊, 早稲田大学日本語研究教育センター。
 坂本 恵・蒲谷 宏(1995)『申し出表現』『国語学研究と資料』19号。
 鈴木孝夫(1973)『言葉と文化』, 岩波新書。

「在日学習者」と「在ミ学習者」の調査対象者リスト

「在日学習者」				「在ミ学習者」			
回答者 No.	性別	在日期間	出身地	回答者 No.	性別	学習期間	出身地
1	男性	2年	ヤンゴン	1	男性	3年	ヤンゴン
2	女性	2年	ヤンゴン	2	女性	3.5年	ヤンゴン
3	女性	3年	メミョ	3	女性	12年	ヤンゴン
4	女性	1年	ヤンゴン	4	女性	9年	ヤンゴン
5	男性	2年	マンガレー	5	男性	7年	ヤンゴン
6	男性	2年	ヤンゴン	6	男性	10年	ヤンゴン
7	男性	6年	ヤンゴン	7	男性	10年	ボガレー
8	女性	1年	ヤンゴン	8	女性	2.5年	ラーショー
9	男性	2年	ヤンゴン	9	男性	10年	ヤンゴン
10	男性	5年	ヤンゴン	10	男性	8年	ヤンゴン
11	男性	3年	ヤンゴン	11	男性	10年	ピンマナー
12	女性	4年	ヤンゴン	12	女性	2年	ヤンゴン
13	女性	3年	ヤンゴン	13	女性	3年	ヤンゴン
14	女性	3年	ヤンゴン	14	女性	5年	ヤンゴン
15	女性	1年	ヤンゴン	15	女性	2年	ヤンゴン
16	男性	1年	ヤンゴン	16	男性	4年	ヤンゴン
17	男性	3年	ヤンゴン	17	男性	3年	ヤンゴン

資料リスト

I. ビルマ語の作品

- Kyi Aye (1994) 『Imana.』 jeita:na Press.
 Juu (1993) 『Nanjan-i. Akhja:təhpə.』 Jakyaw Press.
 ——— (1994) 『Chi'chin:-i. Anu.pjinnja nin. akhja: vuttu.doumja:』 jeita:na Press.
 ——— (1998) 『Jazawin-htehna maun.-gou hta:ji'-khe.nin. akhja: vuttu.doumja:』 Jakyaw Press.
 ——— (1999) 『Kankjama-gou ma-joumkjigia.-thumja:』 Khajja Press.
 Juu May Nein (1997) 『Ajaunrja:-nin. Gaza:-gjin:』 Jatha.e:n Press.
 Min Lu (1984) 『Lwan:ja.aun:』 hja:n Press.

Moe Moe (in:ja:) (1996) 『Vuttu.doumja:1』 Khajan:jaun Press.

Win Win Lat (1997) 『Achi'-i. Nau'hse'twe Samje'hna』 Maheithi Press.

———— (1997) 『Nan:the'-hma-bin Oulei. Pjo-mashwin』 Shwezin Kyaw Press.

II. 日本語の作品

シナリオ作家協会 (1992) 『'91 年鑑代表シナリオ集』 映人社.

———— (1995) 『'94 年鑑代表シナリオ集』 映人社.

———— (1997) 『'97 年鑑代表シナリオ集』 映人社.

———— (1998) 『'98 年鑑代表シナリオ集』 映人社.

———— (1999) 『'99 年鑑代表シナリオ集』 映人社.

———— (2000) 『'2000 年鑑代表シナリオ集』 映人社.

———— (1999) 『シナリオ』 第 515 巻第 1 号, シナリオ作家協会.

日本脚本家連盟 (2000) 『テレビドラマ代表作選集 2000 年版』 日本脚本家連盟.

日本テレビシナリオ登龍門 '99 受賞作:(1999) 『ドラマ』 第 21 巻第 6 号, 映人社.

〈アンケート用紙〉

拓殖大学言語教育研究科 キー・ティダー

2000年7月25日

名前

様

年齢

代

性別 男・女

出身地

次の各項目に記入をお願いいたします。

あなたは次のような時に、どのような表現をしますか？ 表現しないところに「×」を付けてください。

I. ...さんの服の背中のボタンがはずれているので、はめてあげたいと思い、そう申し出るとき。

(女性同士)

- 1 (a) ...さんが、親しい友人である場合.
(b) ...さんが、親しい上司である場合.
- 2 (a) ...さんが、転勤してきたばかりの同僚である場合..
(b) ...さんが、転勤してきたばかりの上司である場合..

II. つまづいて転んだ女性を見かけた時に、助けてあげたいと思い、そう申し出るとき。

- 1 (a) その人が、親しい友人である場合.
(b) その人が、親しい上司である場合.
- 2 (a) その人が、転勤してきたばかりの同僚である場合..
(b) その人が、転勤してきたばかりの上司である場合.

III. ...が旅行に行く間、そのペットを預かってあげたいと思い、そう申し出るとき。

- 1 (a) 親しい友人にそう申し出るとき.
(b) 親しい上司にそう申し出るとき.
(c) 親しい部下にそう申し出るとき.

IV. バーベキュー会で、幹事に水を頼んだら、幹事は水よりジュースを出してあげたいと思い、そう申し出るとき。(あなたは幹事だとしたら、どのように言いますか。)

- 1 (a) 親しい友人にそう申し出るとき.
(b) 親しい上司にそう申し出るとき.
- 2 (a) その人が、転勤してきたばかりの同僚である場合..
(b) その人が、転勤してきたばかりの上司である場合.

V. ...が引越しすることに、何か手伝ってあげたいと思い、そう申し出るとき。

- 1 (a) 親しい友人にそう申し出るとき。
(b) 親しい上司にそう申し出るとき。
(c) 親しい部下にそう申し出るとき。

ご協力ありがとうございました。

何かお気づきの点がありましたら、コメントをお願いいたします。